2026年11月　番組案内

ラジオ番組　ABCラジオ 1008kHz（毎週土～日曜　4:30～5:00）

ラジオ 福音の光

毎週土曜・日曜は近放伝の協力教会や特別ゲストが登場し、「聖書のお話」や「信仰体験談」をお届けします。（※ラジオ牧師は変更になる場合があります。）

11/1（日）
日本同盟基督教団　生駒めぐみ教会
聖書のお話「サトシにならなくてもいい」 伝道師・魯子暁
（ラジオ牧師・上月一郎）

11/7（土）
単立　宝塚栄光教会
聖書のお話「避け所である主」牧師・岩間洋
ミニコーナー「若竹孝行の福音落語 賛美亭ハレルヤ」
（ラジオ牧師・若竹孝行）

11/8（日）
日本福音自由教会協議会 グレース宣教会 大台グレースチャペル
聖書のお話「あなたを変える聖書のことば」牧師・今倉守
（ラジオ牧師・若竹孝行）

11/14（土）
日本福音教会　山の辺キリスト教会
聖書のお話「ご遠慮なく恵みをお受け取り下さい」牧師・柴原佳高
ミニコーナー「梶川光のもっと知りたいクリスチャンミュージック」
（ラジオ牧師・梶川 光、若竹 孝行）

11/15（日）
日本ホーリネス教団　加古川恵キリスト教会
聖書のお話「揺るぎない信仰」協力宣教師・李俊昊
信仰体験談「恵みの中に生かされて」信徒・嶽森治
（ラジオ牧師・梶川光）

11/21（土）
＜特別番組＞「近放伝 音楽感謝祭」ふりかえりSP ①
9月に近放伝主催で行った「第2回 近放伝 音楽感謝祭」。音楽ゲスト・イーワイエスの賛美やトークの一部を特別に放送します。
（ラジオ牧師・梶川光、高橋仕恵）

11/22（日）
＜特別番組＞「近放伝 音楽感謝祭」ふりかえりSP ②
9月に近放伝主催で行った「第2回 近放伝 音楽感謝祭」。音楽ゲスト・向日かおりさんの賛美やトークの一部を特別に放送します。
（ラジオ牧師・梶川光、高橋仕恵）

11/28（土）
奈良県民クリスマス
12月5日に奈良県・田原本町で行われる「奈良県民クリスマス」。主催する奈良県福音宣教協力会の将積稔牧師に見どころを伺う。聖書のお話は、「クリスマスを迎える３つのタイプ」。
（ラジオ牧師・若竹孝行）

11/29（日）
大阪府民クリスマス
12月6日に大阪市で行われる「大阪府民クリスマス」。主催する大阪宣教祈祷会の奥田昭牧師に見どころを伺う。聖書のお話は、「心の貧しい者は幸いです」。
（ラジオ牧師・若竹孝行）

Web番組　ホームページ「ねっとde福音」よりお聴きください

ねっとde福音

「バイブルエッセンス」ラジオ牧師　岩間洋 梶川光

「朗読の時間」パーソナリティ・朗読 上野華子
テーマ～「様々な活動」～（グッド・モーニング・トゥー・ユー⑨）

「G-lightクルーズ」ラジオ牧師　岩間洋
パーソナリティ　上野華子

「みことばのしずく・総集編 No.96～100」朗読　藤川真澄
（世の光・ライフラインメッセージ集「時にかなって」より）

近畿福音放送伝道協力会

きんぽーでん［TEL］06-6467-4030 /［FAX］06-6467-4031

近放伝（近畿福音放送伝道協力会）は近畿にあるプロテスタント教会がともに協力し、メディアを通して福音を伝えている団体です。

ご支援はこちら［郵便振替］00980-6-311080

3分間メッセージ　▶06-6467-4032（24時間いつでも聞けます）

でんわ世の光

インターネットでもお聞きいただけます　https://www.radio-yonohikari.com

テレビ番組　朝のひととき、あなたの心にやすらぎと希望をお届け！

ライフ・ライン

サンテレビ 日 7:00～7:30AM
びわ湖放送 土 8:00～8:30AM
KBS京都 土 6:30～7:00AM

第1週　10月31日・11月1日放送



「いまこそキリスト教保育を！」
松浦 浩樹さん
神奈川県相模原市にある和泉短期大学児童福祉学科の教授・松浦浩樹さんを紹介します。松浦さんはこれまで多数の教育機関で幼児教育に携わってきました。今回は「子ども一人ひとりは、神によっていのちを与えられた、かけがえのない存在」というキリスト教保育の理念について、お話を伺います。

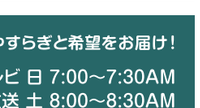
第2週　11月7・8日放送



「続・ヘボンの愛した横浜を歩く」
原田 憲夫牧師・山口 陽一さん
先月に引き続き、原田憲夫牧師が東京基督教大学元学長の山口陽一氏と共に、ヘボン式ローマ字を考案したことで知られるジェームス・カーティス・ヘボンゆかりの地、横浜を歩きます。医療活動の傍ら英語塾を開き、和英辞書の編纂や聖書の日本語翻訳事業に携わるなど、日本の文化や近代教育に大きな影響を与えたヘボンの功績に迫ります。

第3・4週　11月14・15日, 21・22日放送





「マザーテレサ」
吉村 美穂さん（お話:関根弘興）
ミュージカル「マザーテレサ」を２週にわたって紹介します。このミュージカルは、貧困や病に苦しむ人々の救済に生涯をささげたマザー・テレサの生き様をミュージカルにしたもので、ソプラノシンガー・吉村美穂さんが脚本・演出を、ピアニスト・野田常喜さんが音楽制作を担当しました。ミュージカルの公演の様子とともに吉村さんにお話を伺います。

第5週　11月28・29日放送

「神様に追いかけられてきた人生」
中島 みぎわさん
昨年10月に新たに国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパン事務局長に就任した中島みぎわさんを紹介します。決して前に出て人を引っ張るリーダータイプではないという中島さんですが、そのポジションに置かれたからには全身全霊で取り組む覚悟で多忙な日々を送っています。その中島さんにお話を伺います。

●日曜日には教会へお出かけください

エホバの証人（ものみの塔）、モルモン教、統一教会の件でお困りの方はご相談ください。

【聖書本文引用】聖書 新改訳2017：©2017 新日本聖書刊行会／聖書 新共同訳：©共同訳聖書実行委員会 Executive Committee of The Common Bible Translation／©日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987,1988

THE LIGHT OF THE GOSPEL No.632

発行所／近畿福音放送伝道協力会　大阪市北区東天満1丁目2番14号　ラ・リブロ東天満4F
発行人／若竹 孝行　発行日／2026年11月1日発行
定価／1部20円

THE LIGHT OF THE GOSPEL

福音の光

https://kinpoden.com

2026 NOVEMBER 11 NO.632

信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。遣わされることがなければ、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか。「なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は」と書いてあるようにです。（ローマ10:14-15）

メッセージ

一緒に目標に向かって走りませんか

ニューホープチャペル（彦根福音教会）　牧師　下沢 賢司

私は高校・大学の時に、陸上競技部に所属していました。そんな大学生の時に教会に初めて足を踏み入れ、イエス・キリストを信じて洗礼を受けたのです。そして、洗礼後の間もない時期に、「競技場で走る人たち」（Iコリント9:24）の御言葉に出会いました。この御言葉を通して、クリスチャンとして、どのように歩んでいくのか、というイメージができるようになりました。

陸上部で毎日走っていた大学生の私が、どうして教会に通い、イエス・キリストを信じたのか。それは、大学受験が自分の願い通りにはいかず、目標のない空を打つような歩みをしていたからです。どこに向かって、何をしたら良いのか分からない。だから、陸上部で走ることで、自分を納得させようとしていたのです。しかし、この御言葉を通して、節制をする陸上競技の取り組みと、信仰の歩みが重なっていったのです。







「競技をする人は、あらゆることについて節制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。ですから、私は目標がはっきりしないような走り方はしません。空を打つような拳闘もしません」（Iコリント9:25～26）

神の御子であるイエス・キリストは、この地上に来てくださり、私のあらゆる罪を背負って十字架で死んで下さいました。しかし、キリストは死んで終わりではなく、三日目によみがえられました。そのようなイエス・キリストの歩みが、まさしく「私の救い」という明確な目標があっての歩みであったことが分かるようになりました。それほどまでに神様に思われ、愛されていることを知って、私の歩みも変えられていきました。

私たちも、朽ちない冠、そしてイエス・キリストという目標に向かって、一緒に走り、歩んでいこうではありませんか。それは、喜びと感謝の歩みに違いありません。

教会紹介

■名称：単立 ニューホープチャペル（彦根福音教会）／ ■TEL：0749-22-8352
■住所：滋賀県彦根市山之脇町27-1／ ■アクセス：近江鉄道 彦根口駅 徒歩10分、JR南彦根駅 徒歩20分
■ホームページ：https://www.newhopechapel.link/
■集会案内：日曜日　主日礼拝 第１礼拝 9:00、第2礼拝10:30（月に一度 合同礼拝10:00）
キッズ礼拝：10:30（合同礼拝の日はお休み）／ 第1・第3水曜日：水曜礼拝 19:30

＼今月のコラム担当／
若竹 孝行

聖書って おもしろい!

#11 聖書と笑い

私は聖書をもとに落語を創作している者として、どこかに笑えるところはないかと、時々聖書を斜に構えて読むことがあります。聖書は、神の言葉や、神と人間の歩みを記した書物の集まりです。ですからそこには人間の現実もリアルに描かれています。ことばを換えれば人間味あふれる書物ということもできると思います。

今回は旧約聖書の中に登場する、預言者ヨナについて考えてみたいと思います。旧約聖書のヨナ書の主人公です。ヨナは、大嫌いなニネベの町に行って、人々に悔い改めるようにと呼びかけるよう、神から命令を受けます。ところがヨナは、ニネベの人々を神に立ち返るよう導くなんて、やなこったと言わんばかりに、船で反対方向へと逃げるのです。船が難破しそうになり、海に放り出されたヨナは、クジラのような大きな魚に飲み込まれてしまいます。その時のことがこう書かれています。「苦しみの中から、私は主に叫びました。すると主は私に答えてくださいました」（ヨナ書2:2）。ヨナが自分で招いた苦境ですが、神様は、お前が悪いのだから知らない、とはされないで答えてくださるのです。そして、「ヨナを陸地に吐き出させ」ます。

そして神様は再びヨナに語りかけ、「立ってあの大きな都ニネベに行き、わたしがあなたに伝える宣言をせよ。」（ヨナ書3:2）と、もう一度ヨナにお命じになったのです。ヨナは、今度はご命令どおりニネベの町に行って神のことばを伝えました。するとニネベの人々は悔い改めて神様を信じたのです。

ヨナは立派な人物ではありません。逃げる、怒る、不満を言う、自分の思いを曲げられない…。ヨナ書には、そんな人間味あふれるヨナの姿が随所に見受けられます。そして神様はそんなヨナを忍耐して導いてくださるのです。

どこかに、このヨナに似たような人はいないでしょうか？それはほかでもない、この私自身の姿でもあります。

落語では、人々の人間味に共感し、笑いと涙を誘うのですが、聖書の物語はそれで終わりではありません。神様はわたしたちの悲しみを笑いに、苦しみを喜びに変えてくださるお方なのです。

おたよりコーナー 視聴者の声

TV ライフ・ライン

ずっと見ています。心から落ち着く。毎週教会にも行きたいけど、なかなか勇気が出ません。＜宝塚市 Tさん＞

大変良かったです。これからも大変でしょうが頑張ってください。
＜川西市 Nさん＞

いつも感動する放送を有りがとうございます。三浦綾子さんのご生涯を通して、たくさんの方々に種がまかれ、実を結んでおられ、神様のすばらしい御業を思います。本当に感謝しています。さらに神様の栄光を現わす番組でありますように。＜宝塚市 Nさん＞

心が洗われる時間でした。
＜堺市 Oさん＞

ラジオ　福音の光

福音の光の放送、いつも楽しみにしています。スタッフの皆様の上にイエス様の祝福が豊かにありますように。
＜豊中市 Aさん＞

御言葉ありがとうございました。父なる神様は私たちがイエス様を信じることを待っておられることを感謝します。神様を賛美する歌をたくさんありがとうございました。
＜市川市 Mさん＞

いつも御言葉をありがとうございます。＜大阪市 Mさん＞

私のターニングポイント ～ 牧師の証し ～

「変えられた私」

奈良福音自由教会　牧師　小林 久実

私は、幼いころからぜんそくがありました。楽しみにしていた遠足や運動会の前夜、興奮のためか発作を起こし、当日は欠席してしまったということが、何度もあった小学生時代でした。そのためか内向性が深まったようです。

大学では、友人たちは皆、楽しそうにしていました。ただ私は、「留年するかも」との不安で押しつぶされそうでした。授業中に突然、心拍数が180まで上がり、冷や汗が出て、気が遠くなりそうになることがありました。「早くも人生失敗してしまった」との諦めの心境でした。

そんな中、吹奏楽部の後輩から、「今度教会で、初めての人でも参加できる集会があるので」と誘われました。私は、社会見学のような感覚で出席しました。講師のお話は、初めての私にもよく分かる内容でした。私たちを創造した神様が、私たちを愛しておられること、しかし私たちには罪があること、イエス様が十字架にかかって死んでくださったので、イエス様を信じる人は罪が赦されること、が順に語られました。私は、「自分には罪などない」と心の中で反発しながら聞いていました。ところが、続けて講師が、「イエス様に頼らずに諦めるのは罪です！」と言われて、ハッとしました。まさに私のことでした。「こんな私も、イエス様に知られ、愛されているんだ」と、驚くと同時にうれしくなり、イエス様を信じる決心をしました。

集会が終わったとき、部屋も周囲の人々も光り輝いて見え、光の世界に移されたかのようでした。私は、自分が変えられた、心の奥底から新しくされた、と実感しました。

私の内向性も、徐々に変えられました。やがて献身して牧師になったある時、大学院時代の先生が礼拝に来られ、「しゃべりが下手くそだったあの小林君が牧師なんだ」と驚かれました。当時の私の学会発表はメチャメチャでしたから。

牧師になって37年になります。何十人、時には何百人の前でも、ラジオ収録のマイクの前でも、神様のすばらしさを語れるようになりました。私を変えてくださった神様に心から感謝しています。







